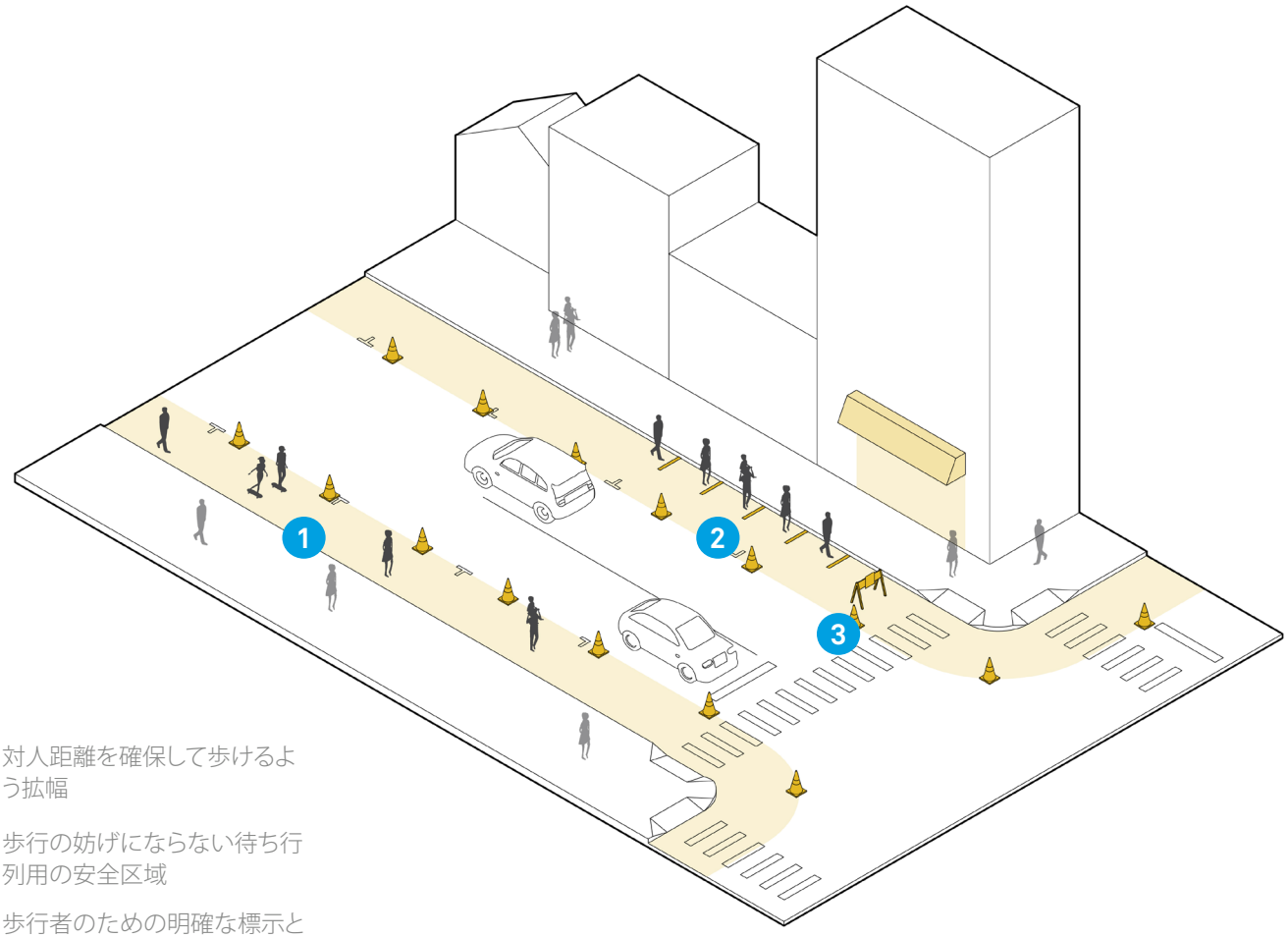
歩道拡幅



1. 対人距離を確保して歩けるよう拡幅
2. 歩行の妨げにならない待ち行列用の安全区域
3. 歩行者のための明確な標示と保護

歩行中や待機中に、人々が対人距離の確保に関する指針に従うための空間を設けます。

即地的状況

- 生活必須事業/サービス、高頻度の公共交通利用、または混雑したレクリエーション用の小道がある主要街路/大通り、幹線道路沿い。
- 歩道幅員が狭い、欠けている、生活道路に転用できない通り。

鍵となる手段

- 路肩の駐車帯や走行車線を歩行者空間に転用する。
- 自立式の視線誘導標やトラフィックバレルなどの反射バリアで車線を保護する。

実施計画: 計画には数日間、実施には数時間。

期間: 数日間から数ヵ月間。

出典:オークランド交通

ニュージーランド・オークランド

オークランドは、クイーンストリートに対人距離を確保するための空間をアスファルト製スロープ、白い安全支柱、塗料を使用して、拡幅された歩道の輪郭を描いて設けた。

計画

- 歩行者の待ち行列や待ち時間がすでに課題となっている、食料品店や市場の近く、あるいは感染率の高い地域の大きな街路などの歩道を優先する。
- 街路を転用して、健康目的の主要施設、または公共交通経路とし、特に生活必須職従業員の安全性を向上させる。
- 共存道路、公園、海岸通りに隣接する車線を歩行者空間へ転用することを検討して過密な状態を緩和する。
- 仮設的な交通規制計画の歩行者保護に関する自治体の要件が、パンデミック対応の実施計画内で満たせない場合は、事業を遅延するのではなく、ルールから逸脱する根拠を文書化する。

連携

- チラシや仮設標識を用いて、街路を利用する人々に通知する。
- 利害関係者や支援者と協力して、チラシの設置や今後の変更点について、近隣住民に安全に連絡を取る。
- コミュニティ団体や事業者団体を活用して、主要な障害や設計や区間の長さに影響を与える課題を特定する。

設計 + 実装

- 軽分離を用いて、歩行空間を区別する。
- 端部の位置やその他の影響を受けやすいポイント（例：主要交差点、T字路交差点）では重分離を使用する。
- 駐車帯がある場合は、縁石から離すか、駐車を禁止する。「浮遊式」駐車帯は、歩道空間の保護を強化できる。
- 歩行者の待ち行列ができる空間には、テープやスプレーチョークで車道に一時的な標示を付け、座席や子供などのために遊び心のある要素を取り入れることを検討する。
- ここに駐車/ここを歩行、ここに駐車/ここに待機などの仮設標識を用いる。
- 一般的な仮設の車線規制標識（前方の車線閉鎖、右車線終了、または地域で同等のもの）を車両閉鎖する前に設置する。
- 人員が制約されている地域団体のために、許可する場所や標示の枠組みを検討する。

モニタリング

- 重要な基準：対人距離が確保された場所での歩行および/または待ち行列のための十分な空間。歩道での待ち行列で待機する人、歩いている人の観察を若干あるいは実施しない。

出典：AMAT Officina Urbana/Comune di Milano

イタリア・ミラノ

ミラノ市は、35kmに及ぶ街路に新たな歩行者・自転車施設を導入するという市全域の計画を策定した。この4.5kmの通りは、最も交通量の多い地下鉄路線上にあり、市は塗料と標示を使用して歩道を拡幅し、駐車帯で保護された自転車レーンを追加した。

出典：@BLineTransport

米国・マサチューセッツ州・ブルックライン

ブルックラインは、自立型視線誘導標に取り付けられたトラフィックコーンと仮設標識を使用して歩道拡幅し、4本の交通流の多い街路に沿って自転車レーンを設けた。